

体感。感動。感謝。NBUのCOC事業をお伝えします。

文部科学省
地(知)の拠点



日本文理大学COC事業

おおいた、つくりびと

coc-nbu.jp

September 2015 Nippon Bunri University, COC MAGAZINE

日本文理大学COC事業

おおいた、つくりびと

NBUが大分で育む、
豊かな心と地域愛。

感動。



体感。



大分の新たな「魅力」と地域の皆さんとの
深い「絆」をつくる確かな力と豊かな心を持つ
『おおいた、つくりびと』になりたい。

感謝。



No. **00**

わたしたちのこと

豊かな自然と歴史や文化を大切に守り続ける、 素晴らしい大分県が、わたしたちのキャンパスです。

全国各地から日本文理大学に集まった学生たちが“大分”を学びのフィールドに、
地域活性化・ボランティア・自然活動体験などさまざまなことにチャレンジ。



NBU日本文理大学が取り組むCOC事業、
「豊かな心と専門的課題解決力を持つおおいた地域創生人材の育成」。
わたしたちは、このプロジェクトを「おおいた、つくりびと」と名付けました。
お金やモノだけでは回ることができない「ほんとうの豊かさ」とは何だろう。
日本の未来を担う若者ができることは？
きっと、その答えはひとつではありません。
だからこそ今、わたしたちは動き始めます。
そのステージは、わたしたちの大学がある大分県。
大分への愛着を勇気に変えて、大分でしかできないことにチャレンジします。
地域の皆さんとともに、もっともっと元気なまちをつくります。
わたしたちは大分県の未来を拓く「おおいた、つくりびと」になりたい。

『おおいた、つくりびと』が取り組む 地域再生・活性化7つの視点

1 小規模・高齢化が深刻な集落における
コミュニティの維持・活性化

2 人口減少社会を支えるための
先進的な“ものづくり”

3 自然の積極的な活用による
保全と地域活性化

4 商店街の活性化による
地域振興

5 健康増進及び生活支援による
コミュニティの維持

6 NPO法人の
活動・経営支援

7 地域ブランドの発掘による
交流人口の増加・産業の活性化(6次化)

「おおいた、つくりびと」になる

体感。感動。感謝。 地域のために、わたしたちができること。

地域の課題の解決を図る「課題解決力」を兼ね備える若者が、「おおいた、つくりびと」。
育成のキーワードは、体感。感動。感謝。です。

体感 × 教育

体験交流活動を通じて、自分の体と 心で感じる、主体的な学びのスタイル。

『おおいた、つくりびと』になるために教育は欠かせません。NBU
が大切にしているのは、自分の体と心で感じる主体的な学びのスタイル。
机の上やパソコンの前だけで終わるのではなく、大分県というキャンパスに飛び出し、
地域の皆さんとの交流を図りながら、知識を学び、経験を積んでいきます。

感動 × 研究

研究成果をカタチに。地域の皆さんや 仲間と感動をシェアしたい。

さまざまな活動を通じて見つけた、地域の課題解決に取り組めます。
そのスタイルは、学生、教職員ともに、理系・文系学部の垣根を超えた「プロジェクト型研究」。
互いの専門分野における専門スキルを持ち寄り、コミュニケーションを図りながら課題解決を目指します。
また、地域の皆さんとの共同研究も積極的に推進します。

感謝 × 地域貢献

大分を想う気持ちと地域への 感謝を胸に、社会貢献に取り組む。

大分県内、全域をフィールドに、学生ならではのアクティブさを全面に
打ち出した社会貢献活動に取り組めます。大分の豊かな自然を守る環境保全、
過疎化が進む地域でのコミュニティ維持、安全なまちづくりのための防犯パトロールなど、
さまざまな活動を展開。また、地域の皆さんに向けての公開講座も開催します。

具体的な取り組み

- 「おおいた、つくりびと」育成のための根幹科目
「大分学・大分策」の全学必須化
- 大分県内各地域における、実践活動教育の推進
- 地域創生に必要なスキル育成のための学部協働型
「地域づくり副専攻」開設
- 正課外体験学習「大分チャレンジ・アワード」の導入

具体的な取り組み

- 地域・地域企業との課題共同研究の推進
- 複数教員による地域志向プロジェクト型研究の推進
- 小規模・高齢化が深刻な集落・地域コミュニティの維持・活性化
- 地域ブランドの発掘による交流人口の増加・産業の活性化(6次化)
- 健康増進・生活支援によるコミュニティの維持 等

具体的な取り組み

- 学生活動による地域・社会貢献
- 未来志向型の市民対象公開講座「大分学・大分策」の実施
- 地域企業向け地域創生人材講座の実施
- アンケートによる地域貢献度の評価

日本文理大学COC事業
キラリびと 『おおいた、つくりびと』で活躍する学生、
 教職員、地域の皆さんにインタビュー。

大切なのは、他人事でなく
自分事にすること



大学COC事業推進責任者
吉村 充功

もっともっと「研究」が
面白くならないと



産学官民連携推進 センター長
池畑 義人

地域とひとつになって、
どれだけ汗をかけるのか



人間力育成センター 副センター長
高見 大介

インターネットでは
体験できないことがある



工学部
機械電気工学科2年
塩崎 克樹

自分たちの次の世代に
森を残したい



工学部
情報メディア学科2年
長瀬 翔斗

COC 特設サイトにて、インタビュー掲載!!

「おおいた、つくりびと」
 ネーミングと
 ロゴマークについて



体感。感動。感謝。

おおいた、つくりびと

■ネーミング

豊かな自然と歴史・伝統がある大分県を学びのステージとして、地域の新しい可能性や県民の皆さんとの絆、そして将来の日本を「つくる」地域創生人材を「おおいた、つくりびと」と名付けました。

■ロゴマーク

つくりびとの主人公である「人」を木の幹に見立て、その上に流れるようにデザインされた大分県の地形を配しました。まるで1本の樹木のようなロゴは、大分県というキャンパスで躍動する若者のエネルギー、未来へ向かって成長を続ける強い意志を表しています。

PICK UP! COCプロジェクト

「おおいた、つくりびと」では、学生たちが日々さまざまな活動に取り組んでいます。

2015.08.05

海をみつめる地域の夏～沸きあがる感謝のころ



▲子どもたちと手をつなぎ夜の海辺を散歩「ナイトウォーキング」

佐賀関在住の元小学校の先生たちが中心となり、「海の地域で育った子どもたちだからこそ、きちんと海のことを理解してほしい」という想いで始まった「佐賀関体験塾」。今年は、指導補助と

してNBUの1年生8名が手伝うことになりました。3泊4日のキャンプは、海水浴、釣り、磯遊び、座禅、野外炊飯、ナイトウォーキングなど、多彩なプログラムが特色。地域の小学生22名が参加しました。

「月や星の輝きってこんなに明るいなね...」。パソコンの画面やテレビを眺めては味わうことのない気分。日中、海辺で騒いでいた子どもたちと手をつなぎ、潮の香りを感じ、波の音に耳を澄ませながら、ゆっくりと歩きます。「一人で大きくなったんじゃない」ことを感じながら...。美しい海や満天の星空。今日出会ったかけがえのない宝物を彼らはずっと忘れることはないでしょう。

まだまだあります！
 大分県内をステージに進行中の
 プロジェクトが盛りだくさん。

- 地域での実践教育の可能性を探る～佐賀関の方々と協働の韓国料理教室
- 「川の港まつり」で学んだ「地域で生きるってこと」
- つるさき歴史発見ツアー～変わらないこと
- 夢に向かって羽ばたく滑走路
- トンボからの授かり物～小さなエコ風車
- 小規模集落の現状を見る！～建築学科「プロジェクトI」 etc...

くわしくはNBUのCOC特設サイト **coc-nbu.jp** へ

文理科学系
 地(知)の拠点

NBU日本文理大学

〒870-0397 大分県大分市一木1727
 TEL.097-592-1600(代表)
<http://www.nbu.ac.jp>

- | | | |
|-----------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 大学院 工学研究科 | <input type="checkbox"/> 環境情報学専攻 | <input type="checkbox"/> 航空電子機械工学専攻 |
| 工学部 | <input type="checkbox"/> 航空宇宙工学科 | <input type="checkbox"/> 機械電気工学科 |
| | <input type="checkbox"/> 情報メディア学科 | <input type="checkbox"/> 建築学科 |
| 経営経済学部 | <input type="checkbox"/> 経営経済学科 | |